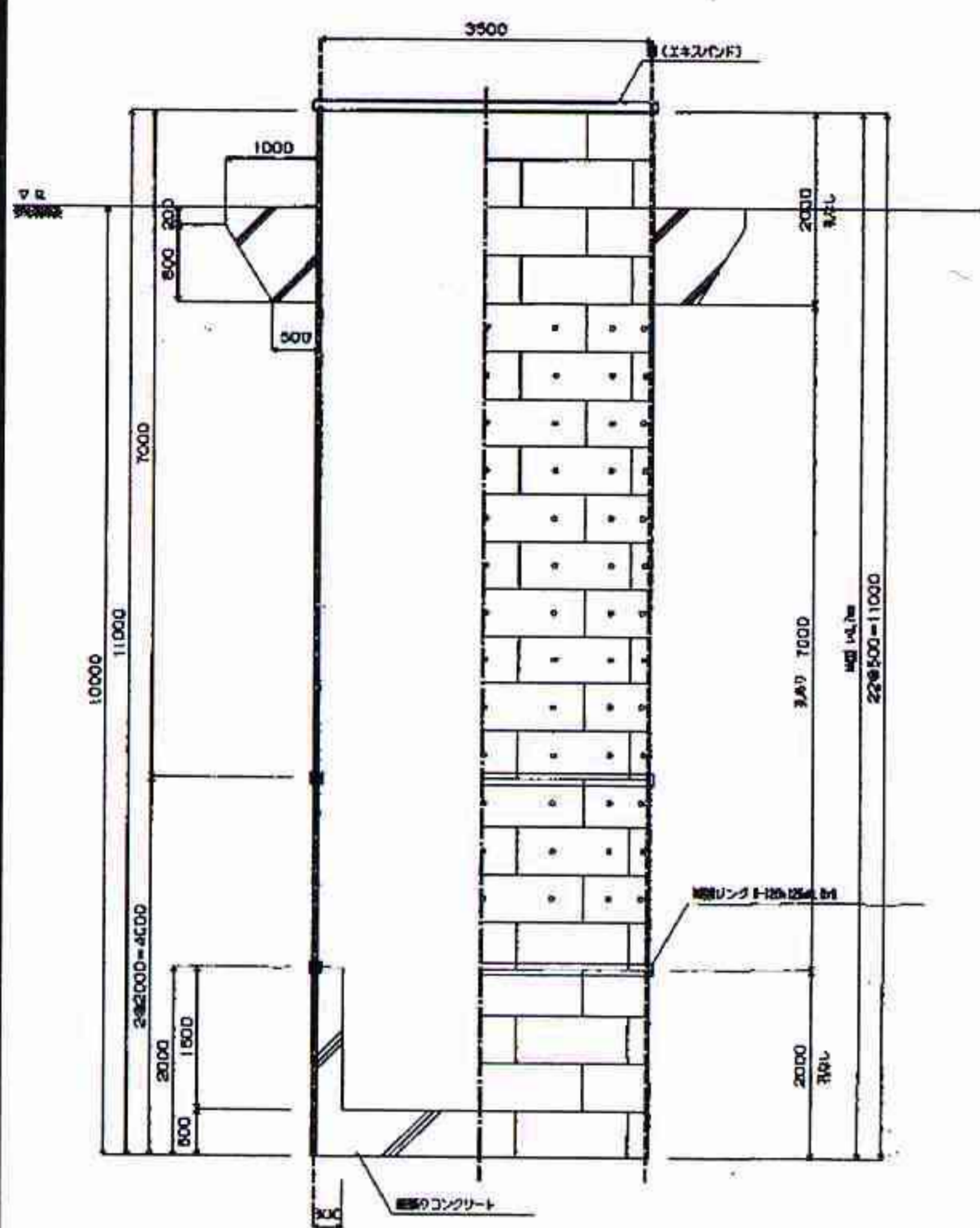


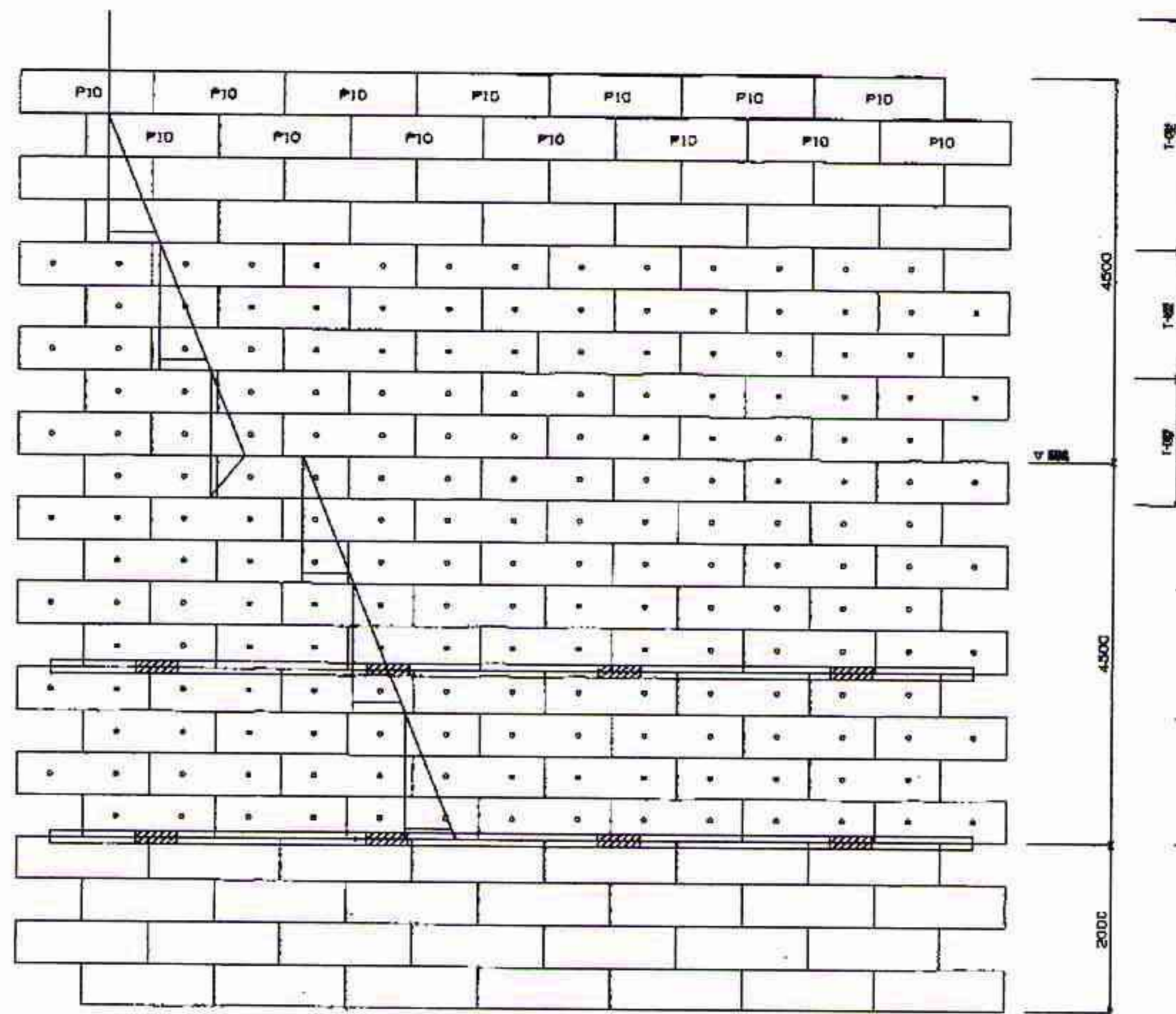
集水井 BW-2 構造図 (S=1/200)

ライナープレート集水井姿図

2.7×3500×11000



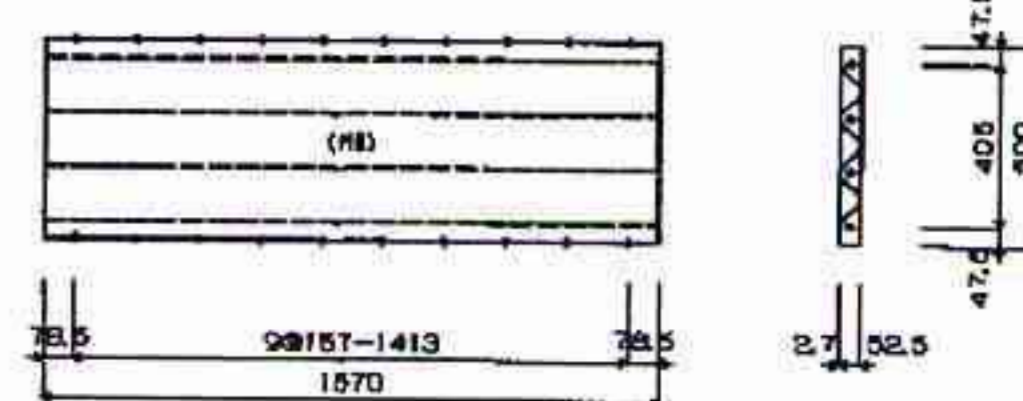
展開図



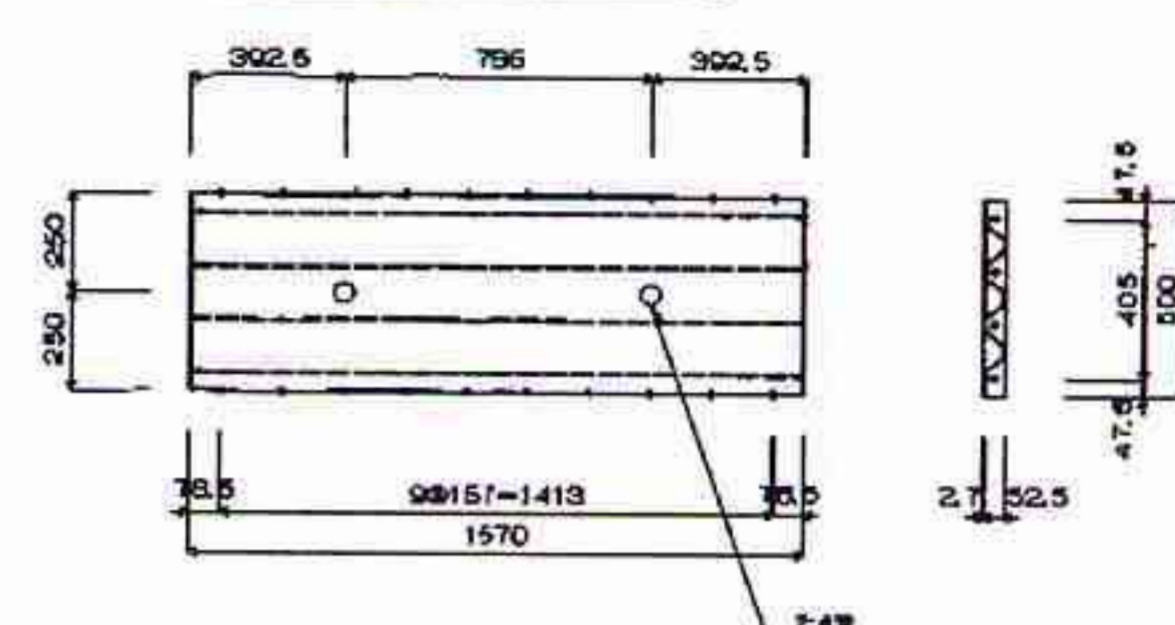
ライナー詳細図 S=1/80

t=2.7mm 亜鉛メッキ付

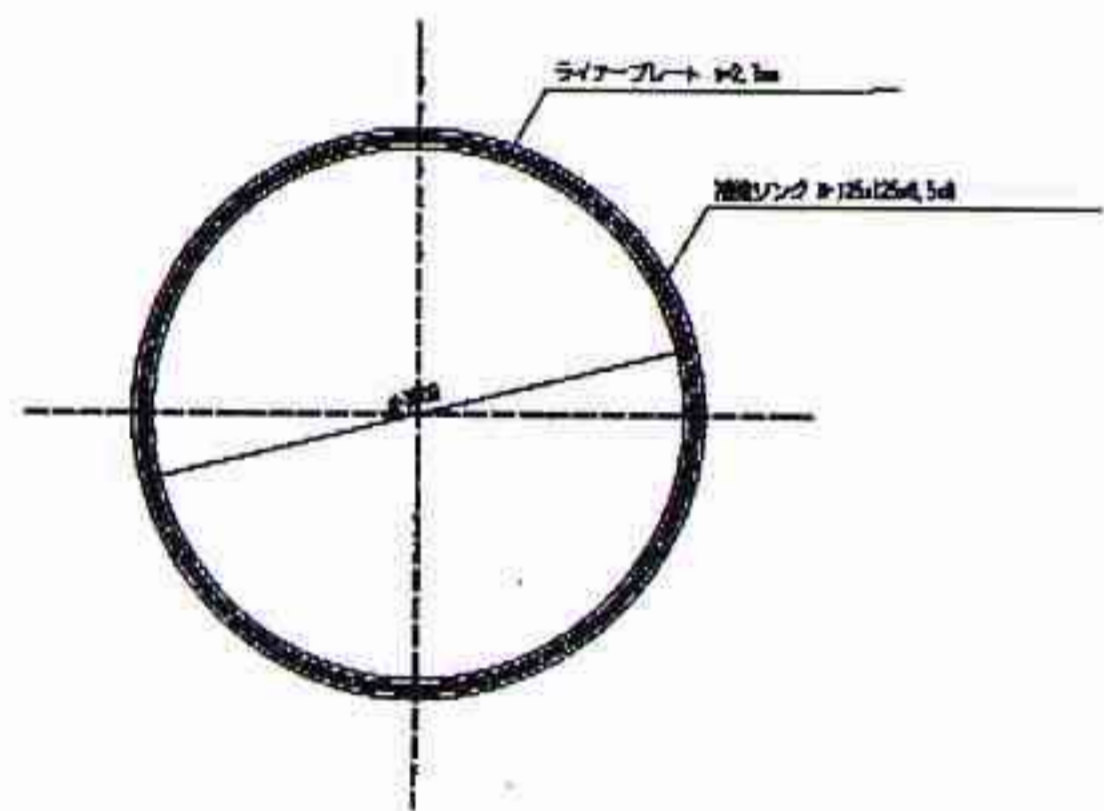
P10セクション



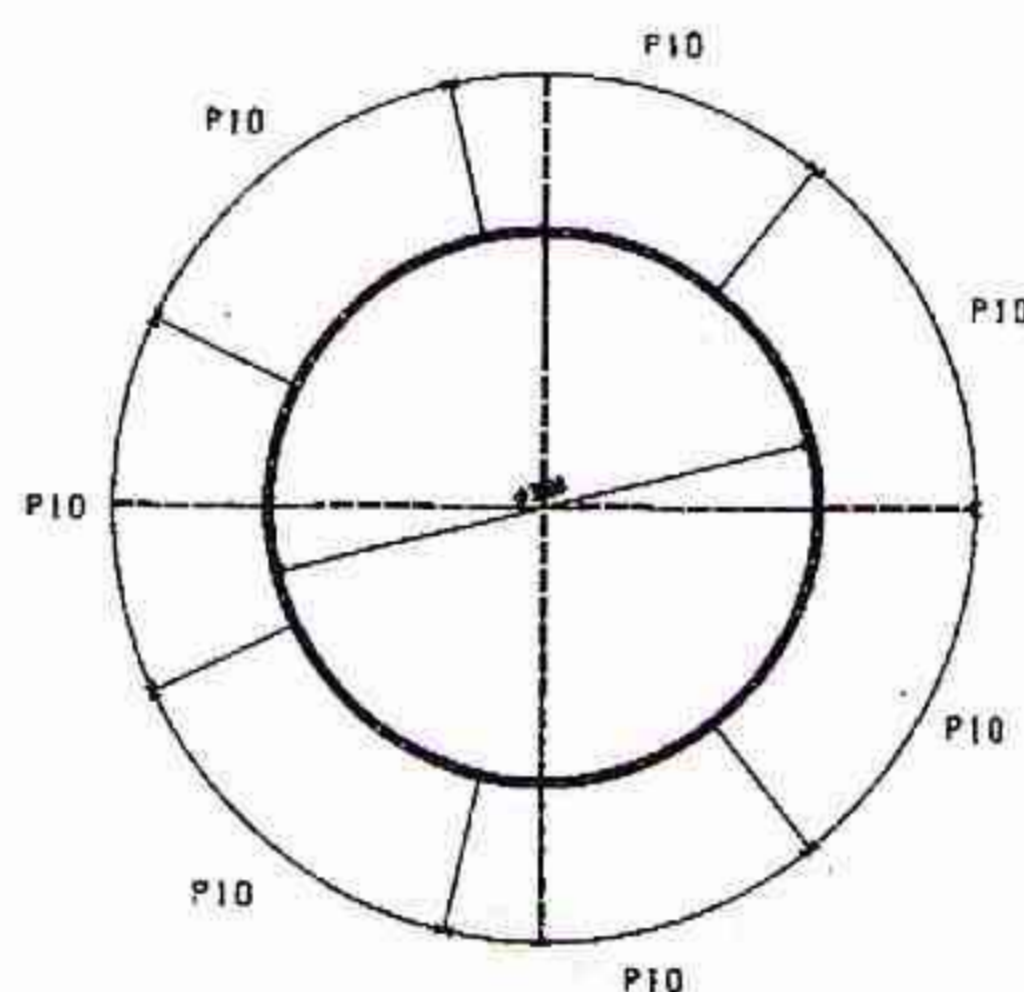
集水孔加工セクション



平面図



ライナー構成図

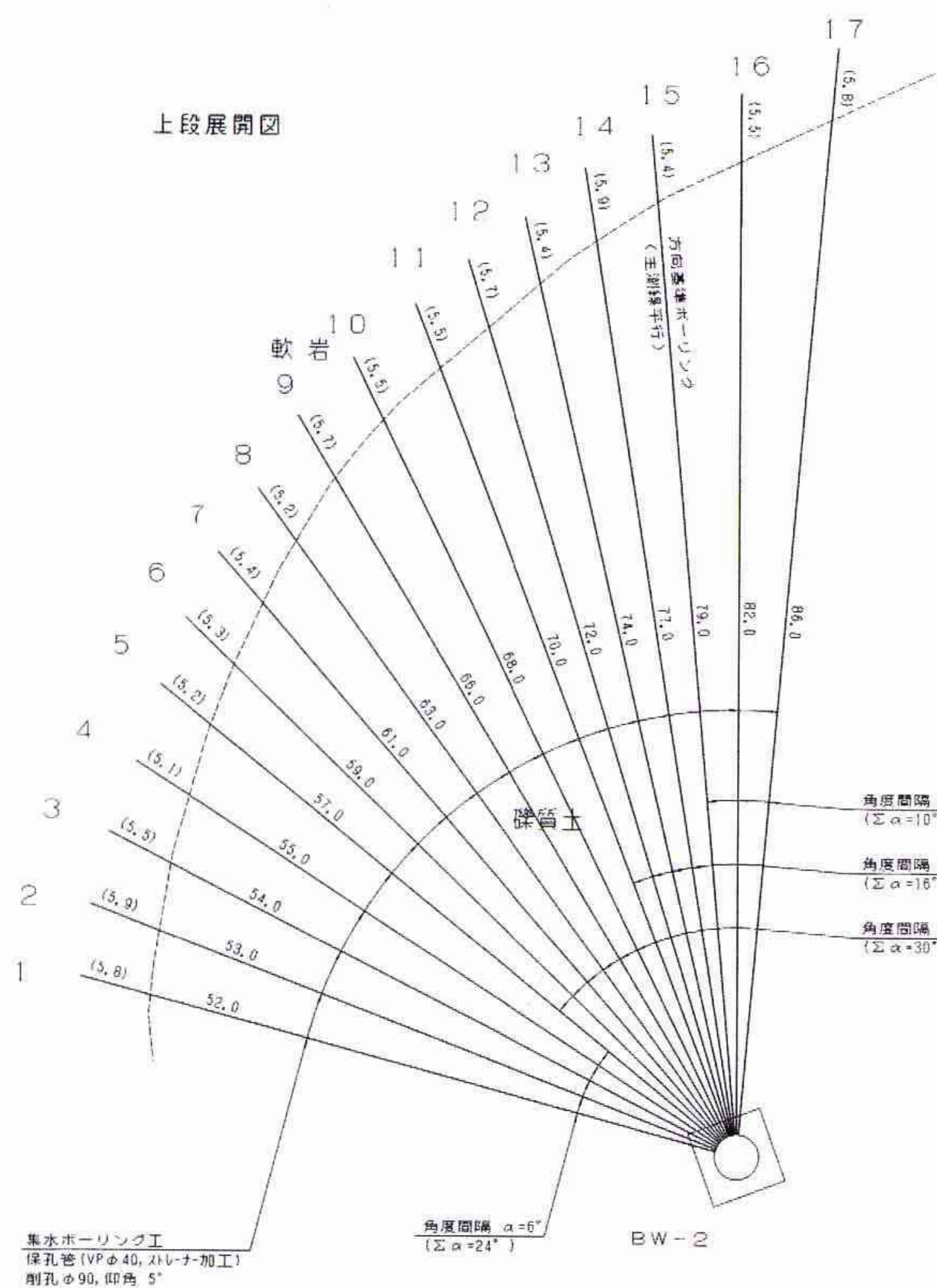


数量表

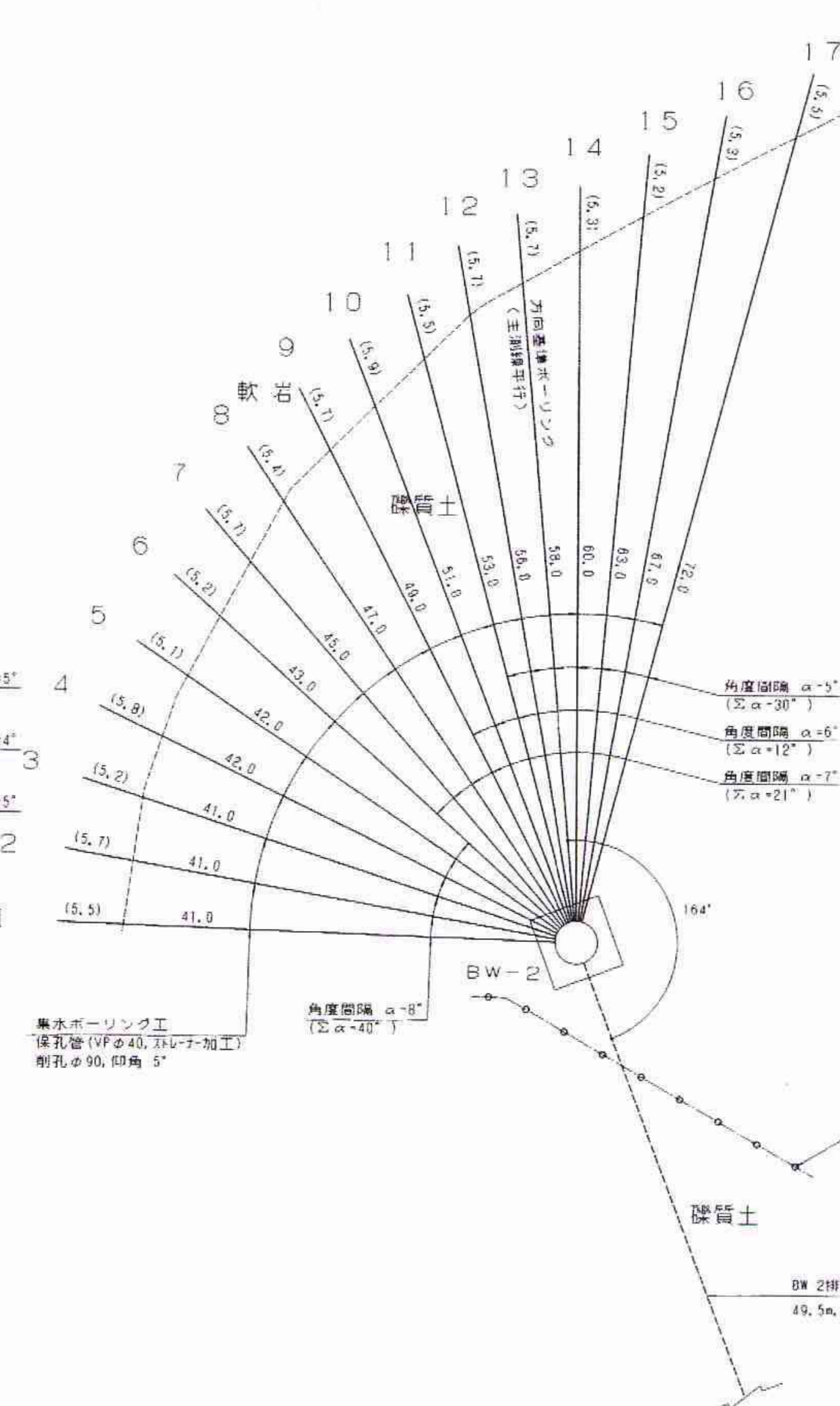
種別	規格寸法	数量	単位	重量 (kg)	備考
ライナープレート	1×2.7m P10 (孔なし)	269枚	枚	255.9	1,006 kg
ライナープレート	1×2.7m P10 (孔あり)	99枚	枚	25.9	2,536 kg
組立ボルト	M16×30	1,920個	個	0.129	248 kg
組立ボルト	M16×40	1,400個	個	0.192	269 kg
組立ナット	H-125×125×6,5×27×1.5	28枚	枚	63.7	520 kg
組立ナット	PL-125×125×310	16枚	枚	3.59	50 kg
ボルト	M20×80	120個	個	0.281	34 kg
組立ナット	M20用	20個	個	0	0 kg
小計					3,030 kg
鋼	φ3550	1	kg	407	407 kg
T-4型 クラップ	1500	4	枚	35.5	142 kg
T-5型 クラップ	2700	1	枚	42.5	50 kg
T-6型 クラップ	1800	1	枚	55.3	55 kg
取付金具	ライナープレート用	17	kg	1.41	24 kg
取付金具	組立ナット用	2	kg	1.37	9 kg
小計					741 kg
合計					3,771 kg

集水井 BW-2 集排水ボーリング配置図 (S=1/1000)

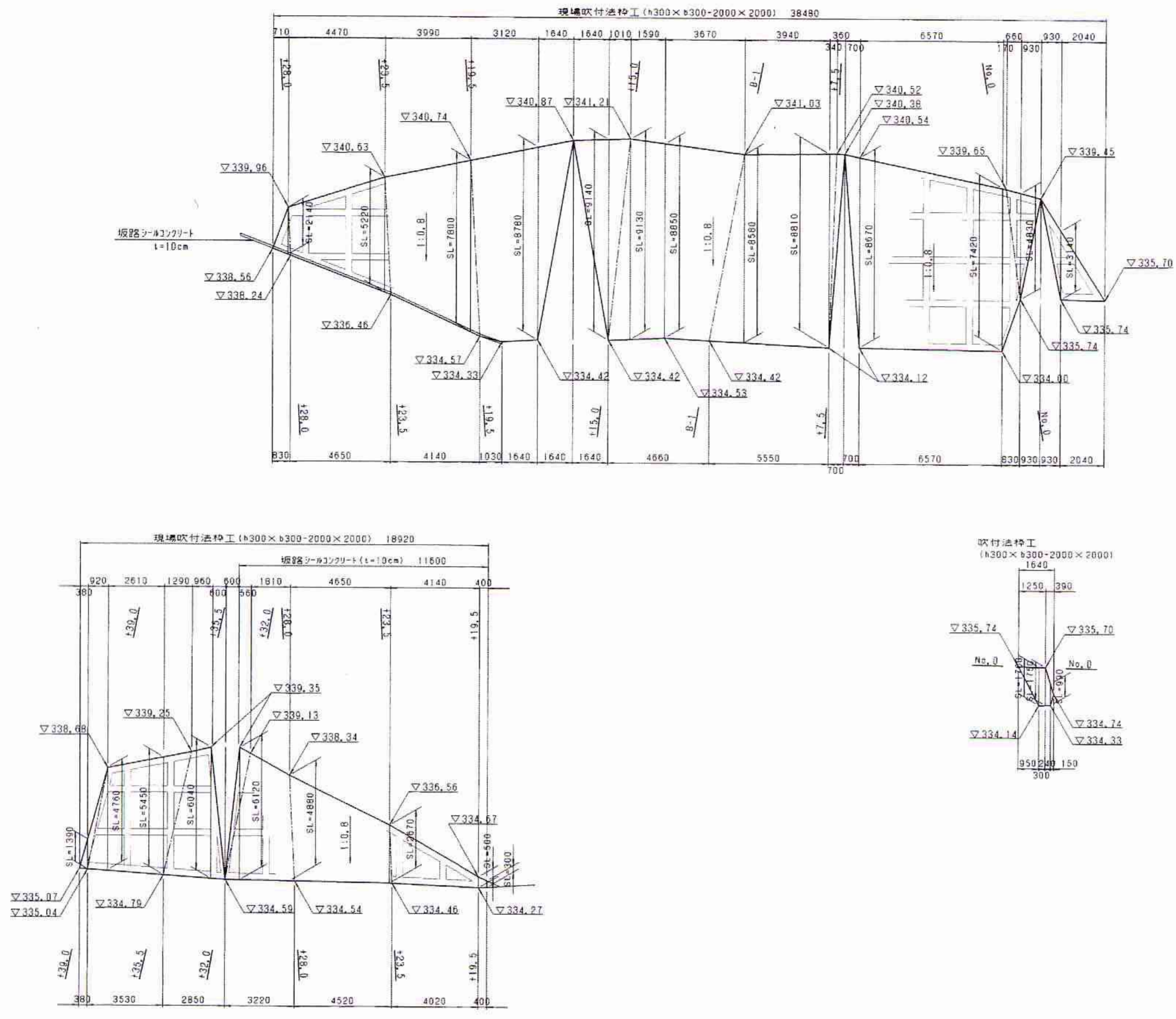
上段展開図



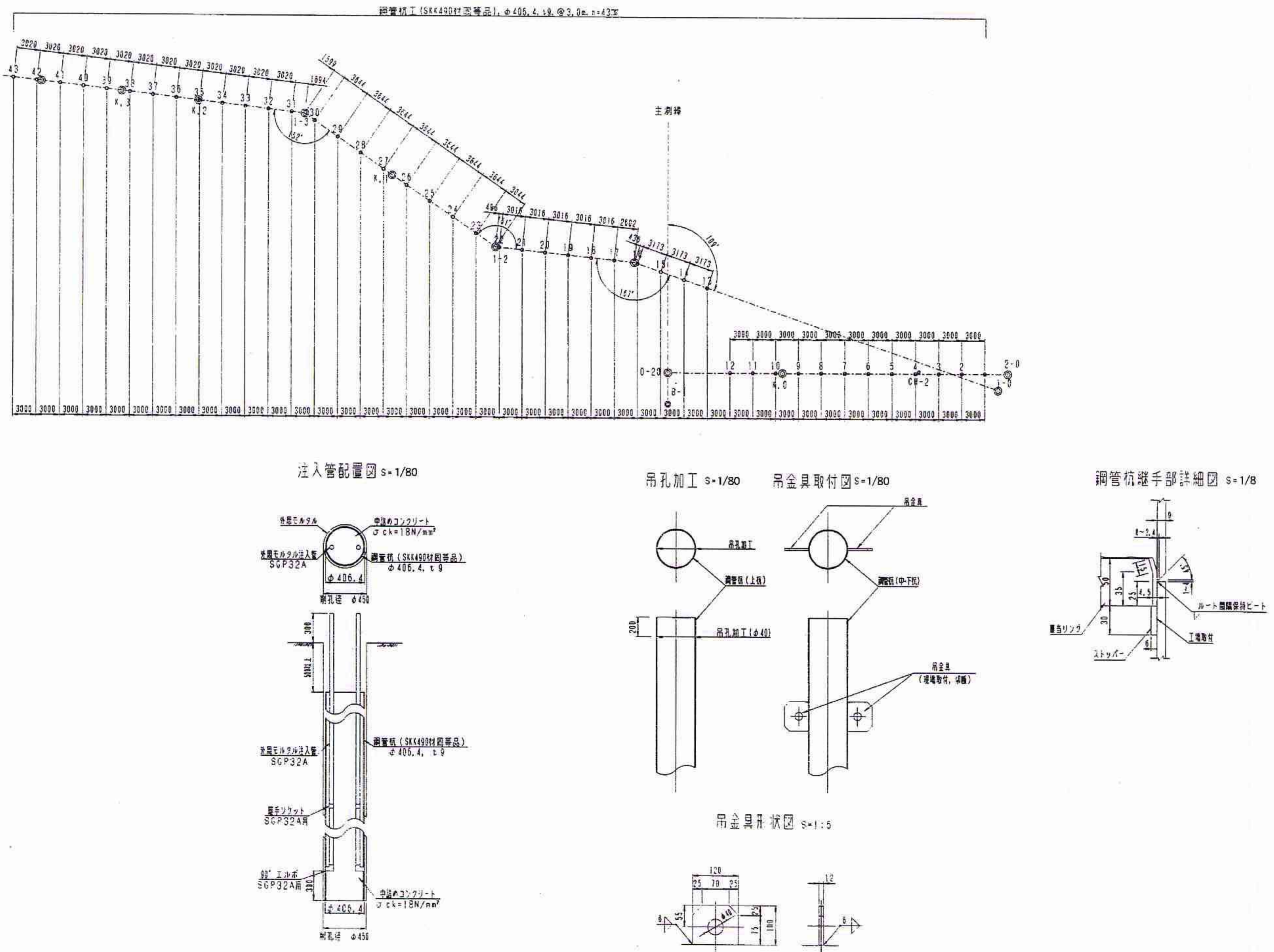
下段展開図



法面工展開図 (S=1/400)

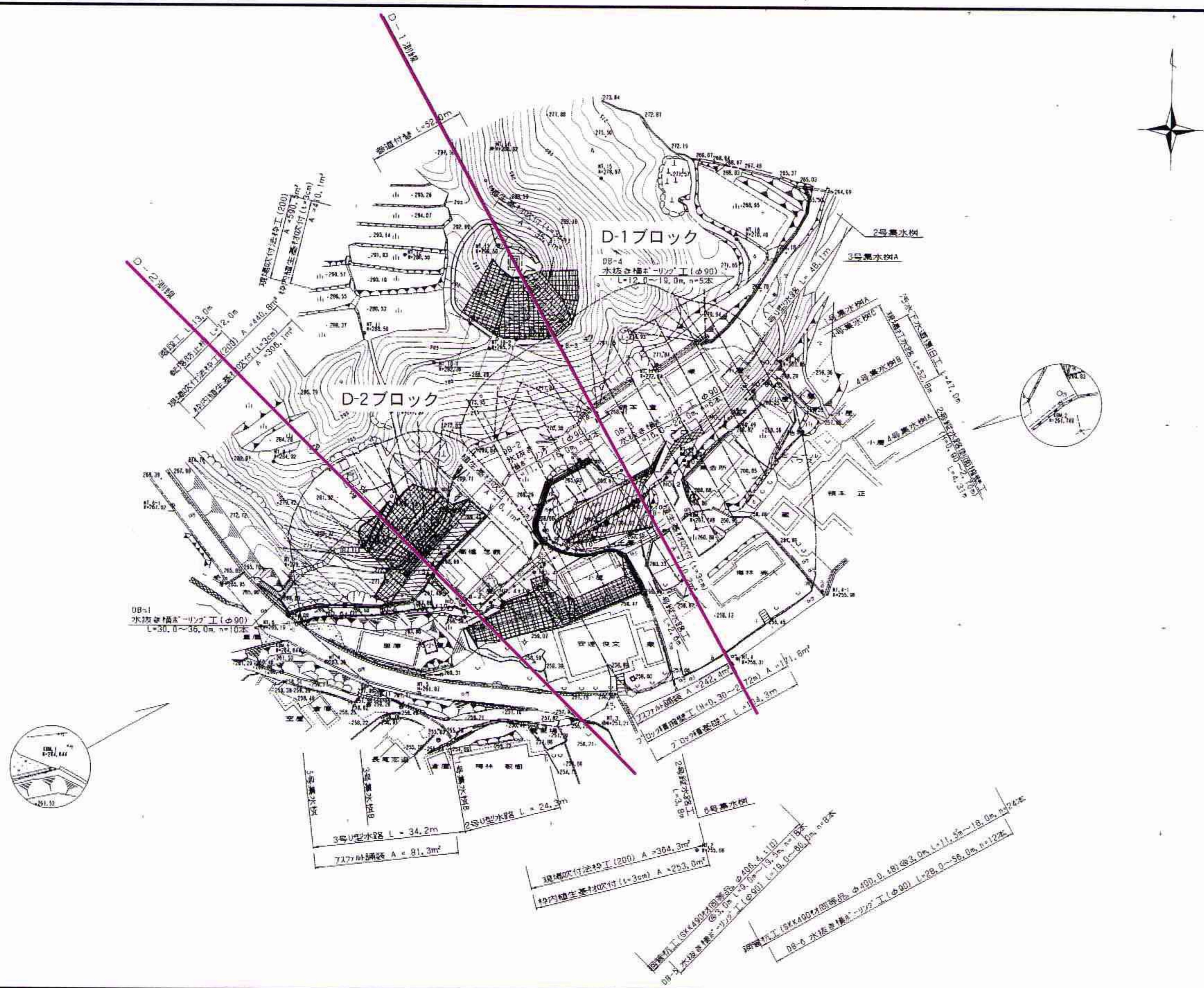


鋼管杭工構造図 (S=1/1000)



番号	12年災第一号	震央からの距離	5.4 km
災害年月日	平成12年10月6日	緯度 / 経度	北緯 35° 13' / 東経 133° 23'
河川名・線路名	下黒坂地区	工事費	286,000 千円
施工位置	鳥取県日野郡日野町下黒坂地内	被災機構	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には不明瞭な地すべり地形を呈する。恐らく鵜ノ池周辺を頭部とし、当地区を末端域とする大規模地すべりが過去において滑動したと思われる。 ・花崗岩の風化境界（礫質土と軟岩）にすべり面が想定された。 ・鳥取県西部地震後の余震、降雨時に地すべり観測計器において「潜在変動」が観測された。
工事名	災害関連緊急地すべり工事		
被災状況及び形態	<p>※地すべり規模</p> <ul style="list-style-type: none"> ・D-1ブロック 幅70m×長さ90m×深さ15m ・D-2ブロック 幅60m×長さ90m×深さ20m <p>※被災状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・D-1ブロック頭部から側方部にかけて断続的に亀裂が発生した。 ・D-1ブロック頭部上方斜面では表層崩壊が発生し、参道が寸断された。 ・D-1ブロック中腹部の私道が著しく崩壊した。 ・D-2ブロック頭部平坦面には連続する開口亀裂が発生した。 ・D-2ブロック末端部には道路、人家土間に多数の亀裂が発生した。 <p>※被災形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風化岩地すべり、角形、舟底形。 		

平面図 (S=1/2000)

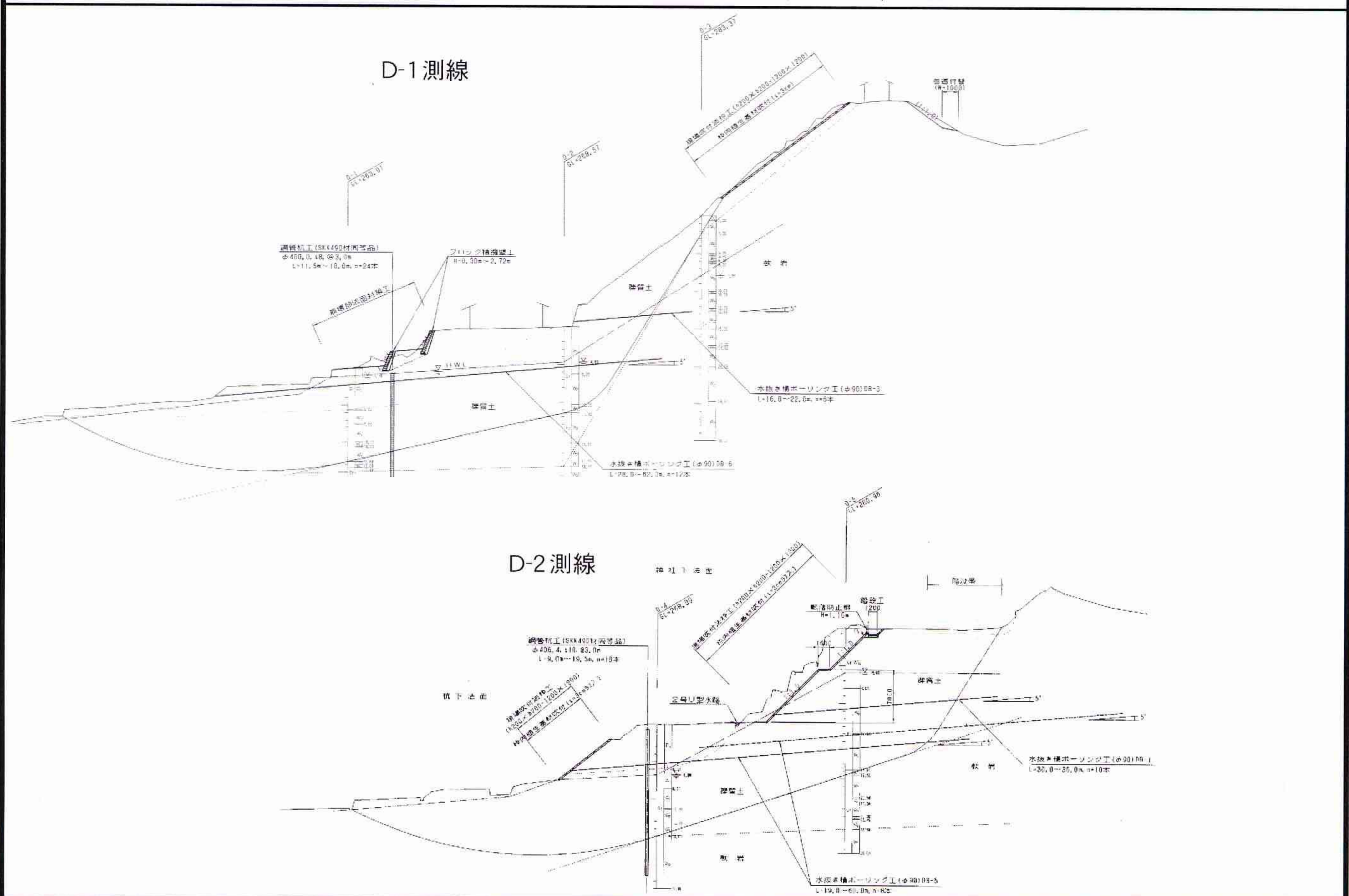


被災状況写真



<p>復旧工法の考え方及び工法選定の理由</p>	<p>※強い地震動によって生じた多数の亀裂を素因として、地震後の降雨による地すべりの発生が懸念されるため、これを防止する目的で「地下水排除工」と「鋼管杭工」を計画した。</p> <p>□安全率の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・D-1ブロック 1.00 (施工前) → 1.20 (計画) ・D-2ブロック 1.00 (施工前) → 1.20 (計画) <p>□工法選定理由</p> <p>(1)地下水排除工 (横ボーリング工)</p> <p>地すべり土塊内を流下する地下水を速やかに排除し、すべり面に働く間隙水圧が増大しないようにする。</p> <p>(2)鋼管杭工</p> <p>アンカー工に比べて経済性に優れているほか、全体的に地形が緩いため、受圧板を配置することが困難である。</p>	<p>工事概要</p> <p>※D-1ブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> □鋼管杭工 (SKK490, φ 400.0 t8, @ 3.0m) L = 11.5 ~ 18.0m/本 × 24本 = 338.0m □横ボーリング (φ 90, VP40) 4基 ・DB-2 L = 11.0 ~ 16.0m/本 × 4本 = 52.0m ・DB-3 L = 16.0 ~ 22.0m/本 × 6本 = 108.0m ・DB-4 L = 12.0 ~ 19.0m/本 × 5本 = 77.0m ・DB-6 L = 28.0 ~ 56.0m/本 × 12本 = 615.0m □現場吹付法砕工 (F200) A = 590.5m² 砕内植生基材吹付 A = 410.1m² □ブロック積擁壁工 A = 171.8m² <p>※D-2ブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> □鋼管杭工 (SKK490, φ 406.4 t10, @ 3.0m) L = 9.0 ~ 19.5m/本 × 18本 = 286.5m □横ボーリング (φ 90, VP40) 2基 ・DB-1 L = 30.0 ~ 36.0m/本 × 10本 = 323.0m ・DB-5 L = 19.0 ~ 60.0m/本 × 8本 = 369.0m □現場吹付法砕工 (F200) A = 805.1m² 砕内植生基材吹付 A = 559.1m²
--------------------------	---	---

標準断面図 (S=1/1000)

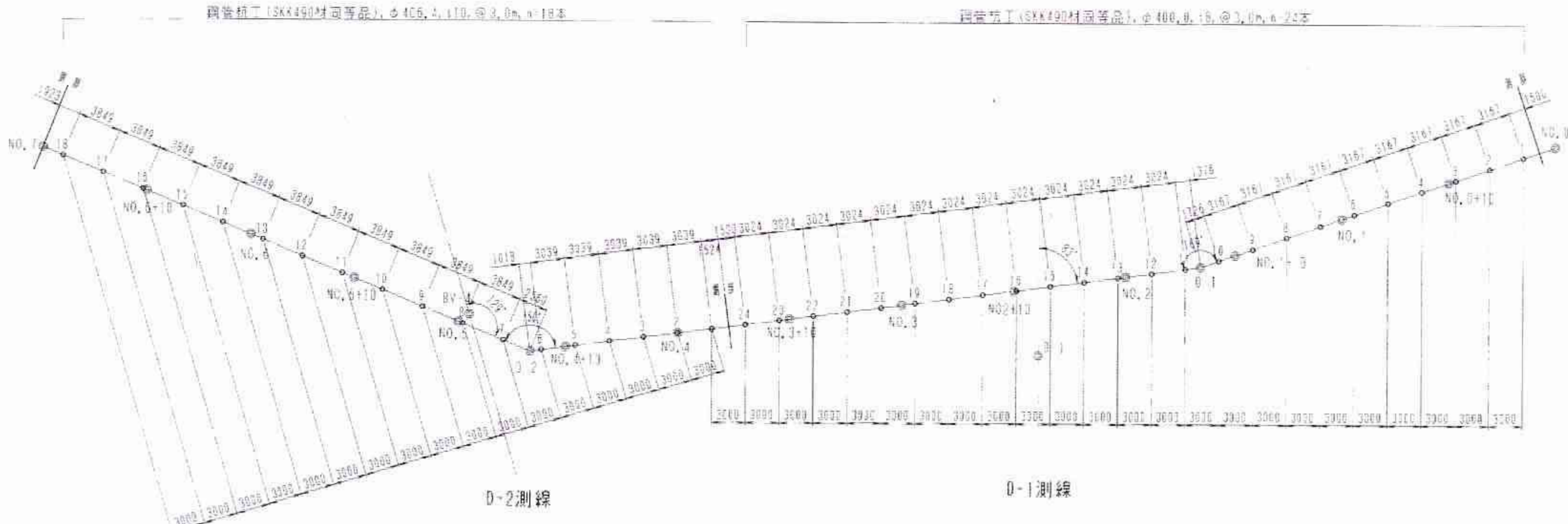


復旧状況写真

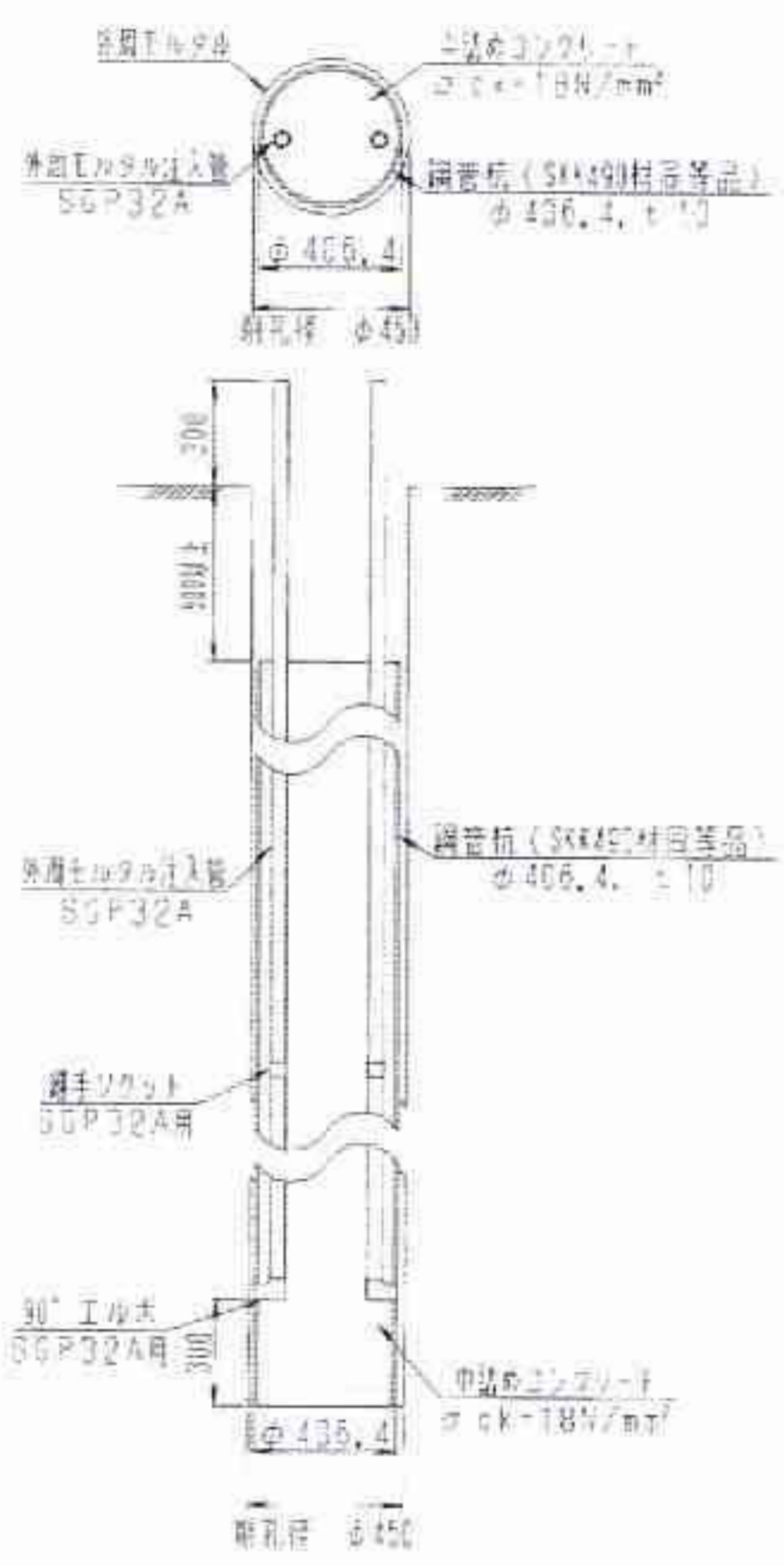


鋼管杭工構造図

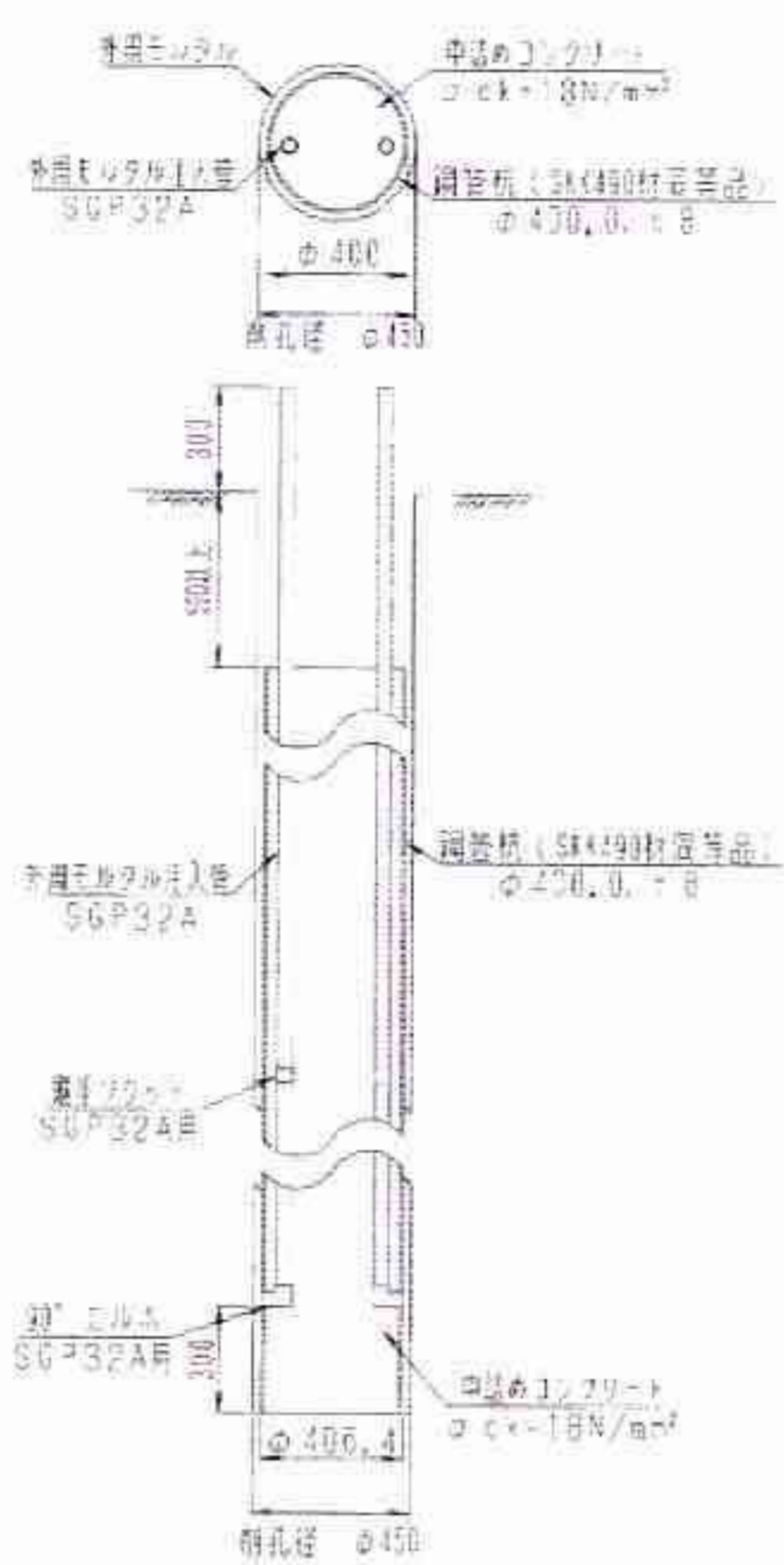
平面図 S=1/1000



注入管配置図 S=1/80
D-2測線

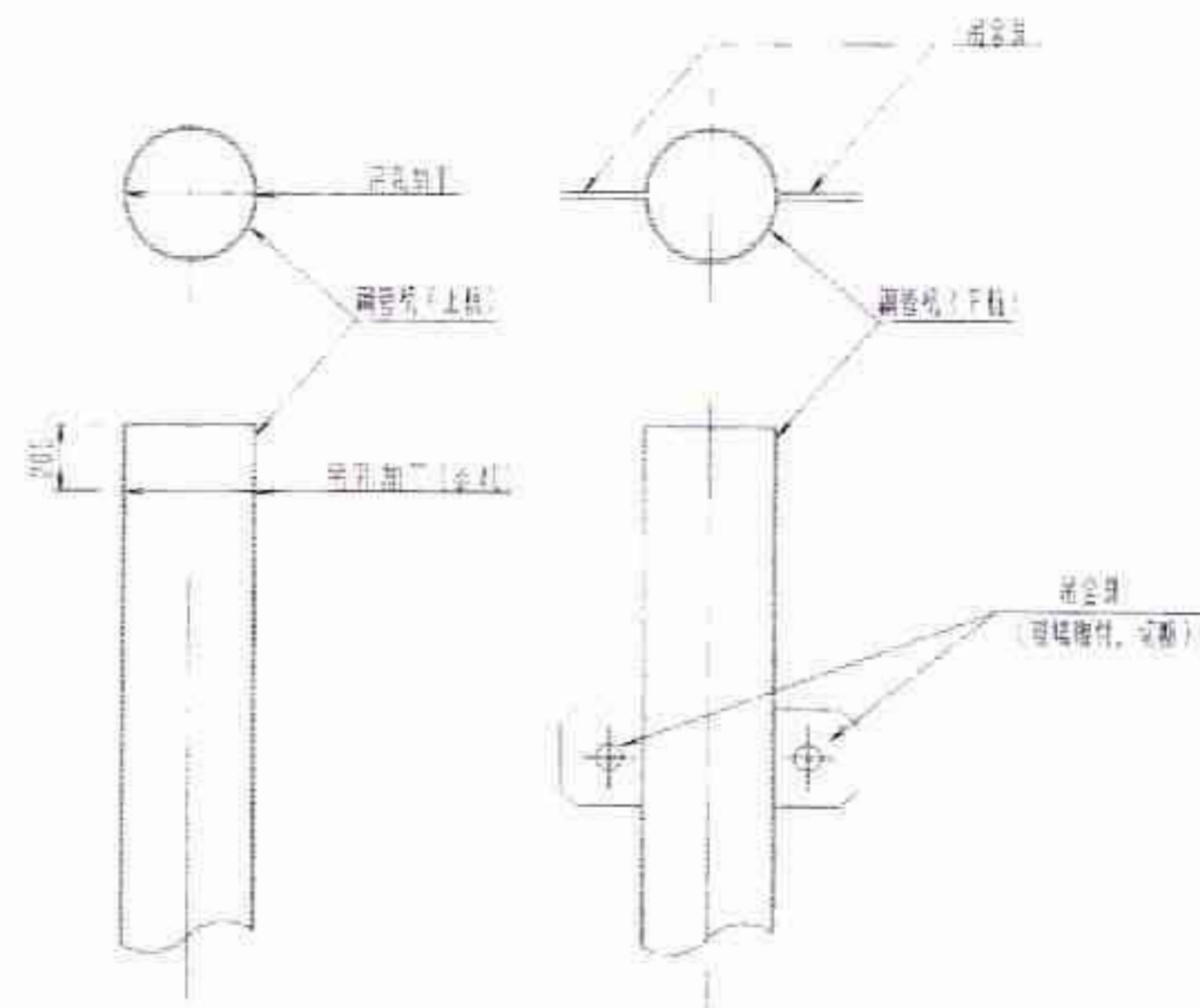


注入管配置図 S=1/80
D-1測線

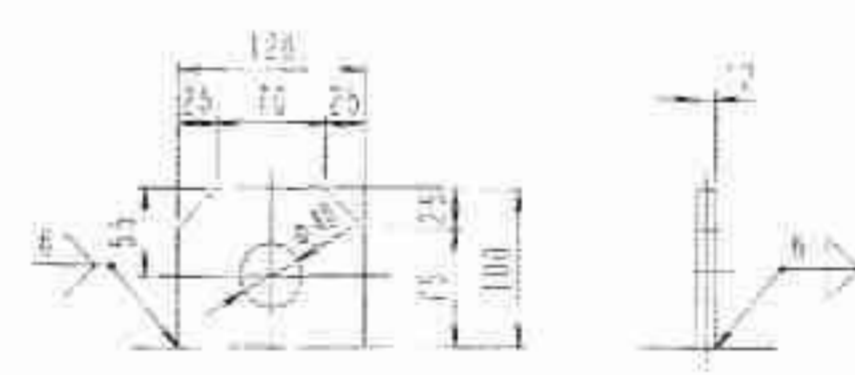


吊孔加工 S=1/80

吊金具取付図 S=1/80

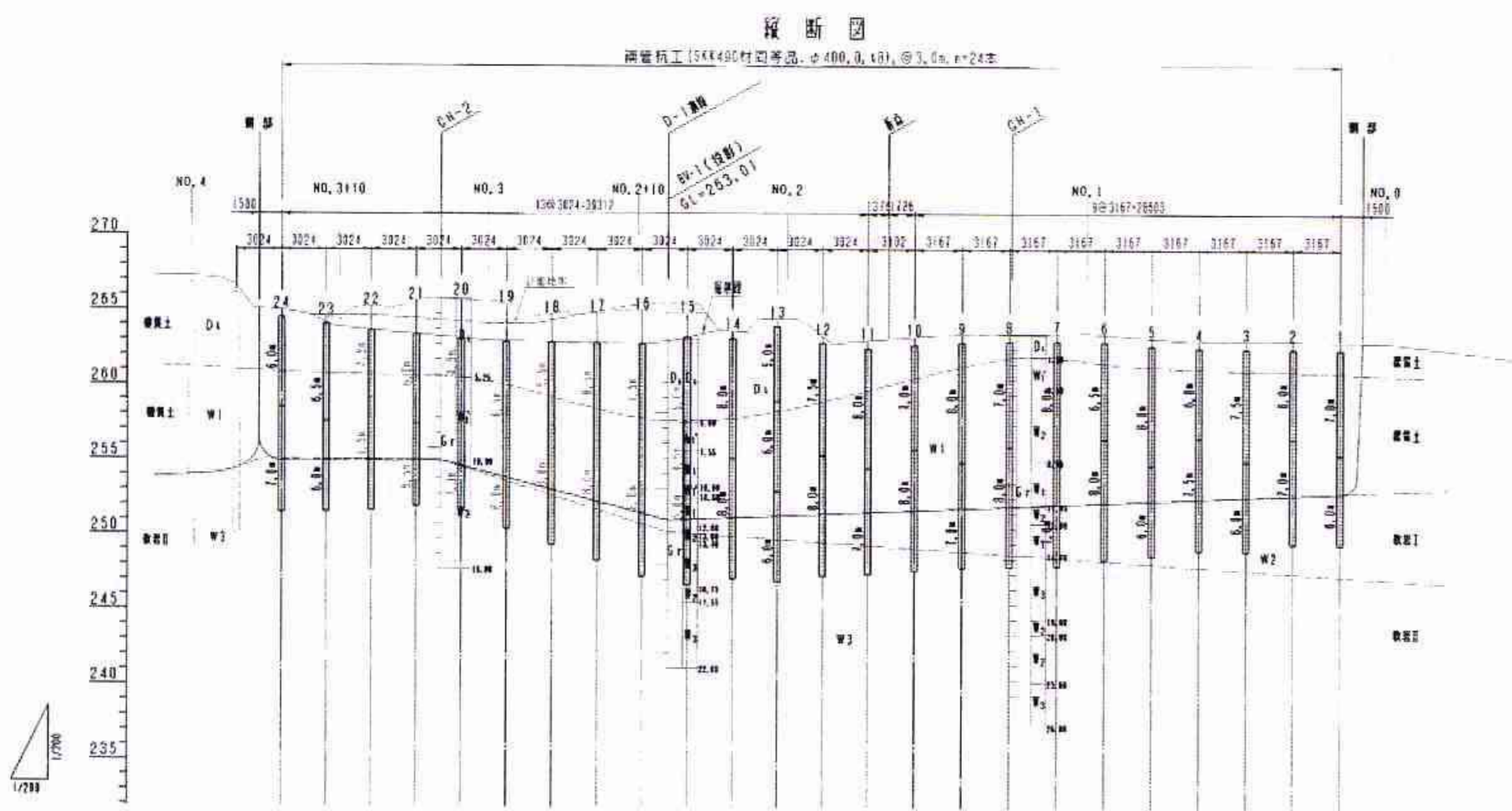


吊金具形状図 S=1/20

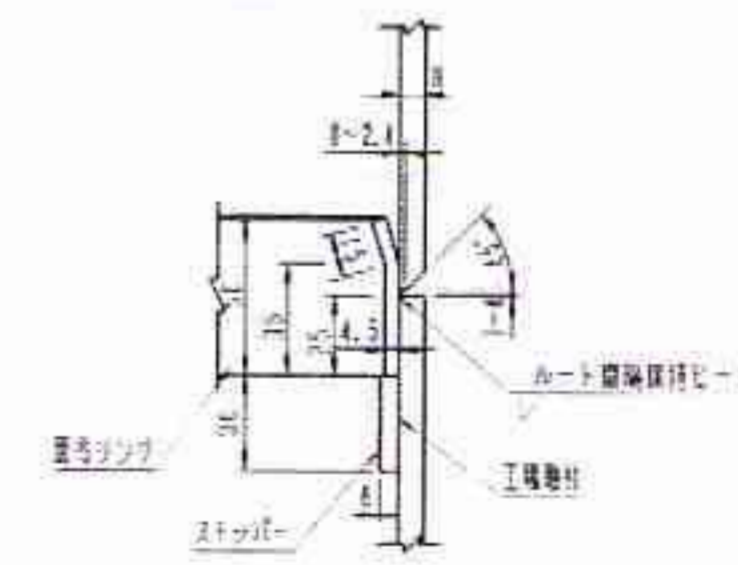


鋼管杭工詳細図 (S=1/1000)

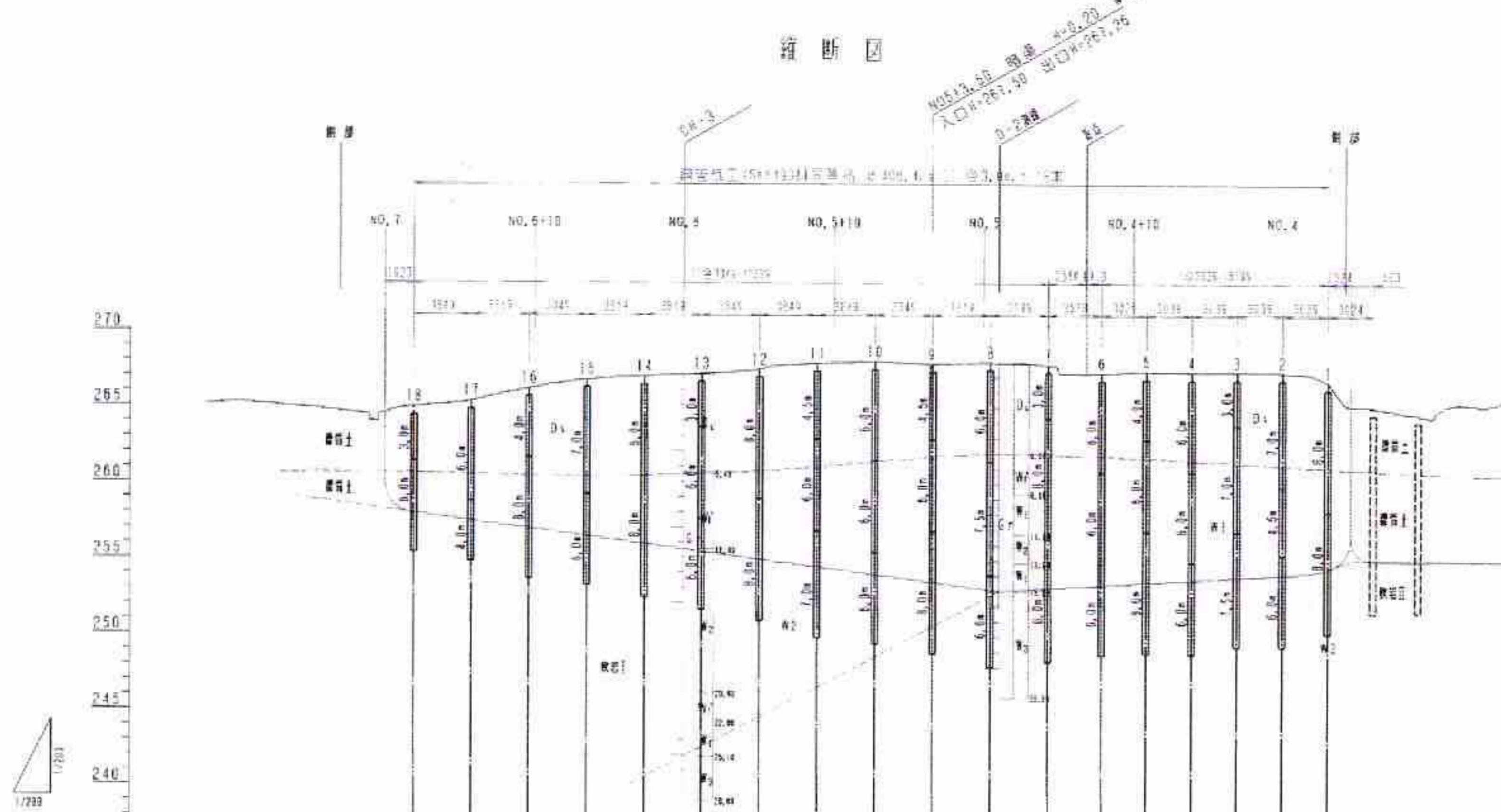
D-1測線鋼管杭工詳細図



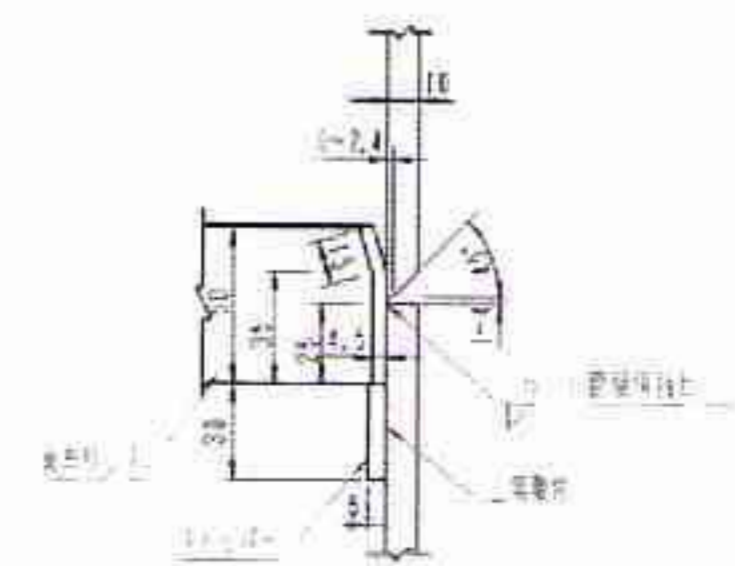
鋼管杭継手部詳細図 S=1:2



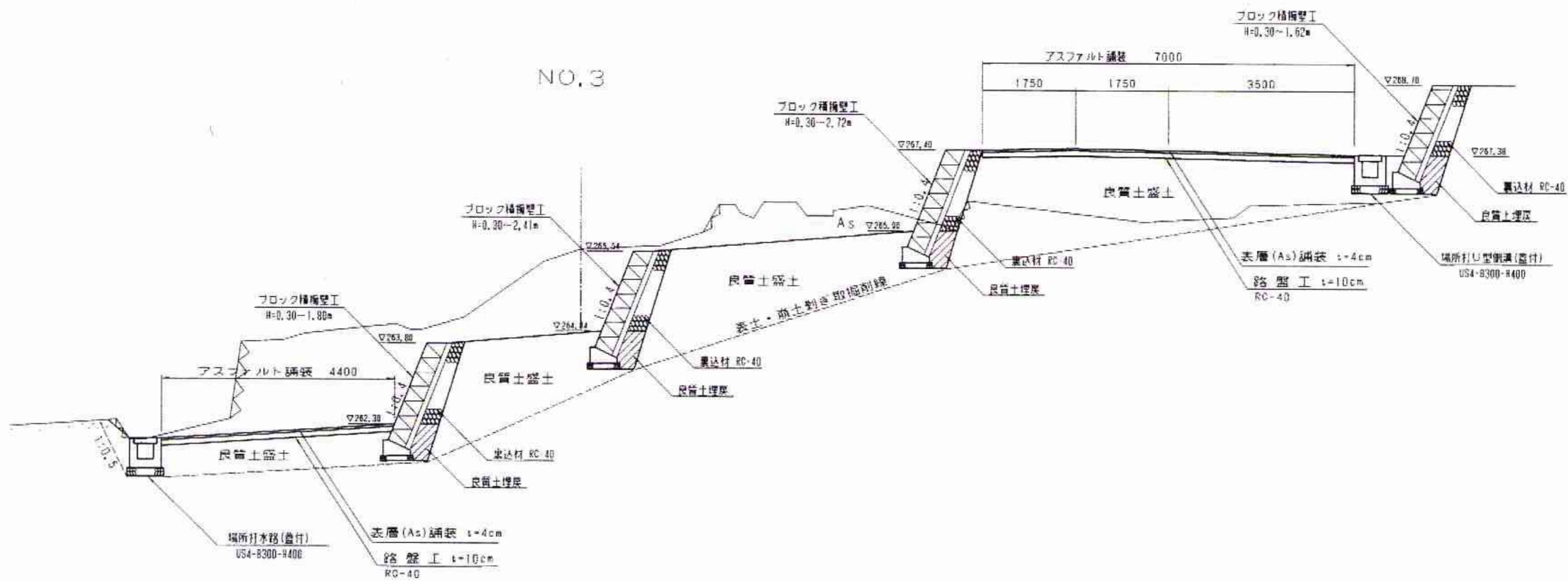
D-2測線鋼管杭工詳細図



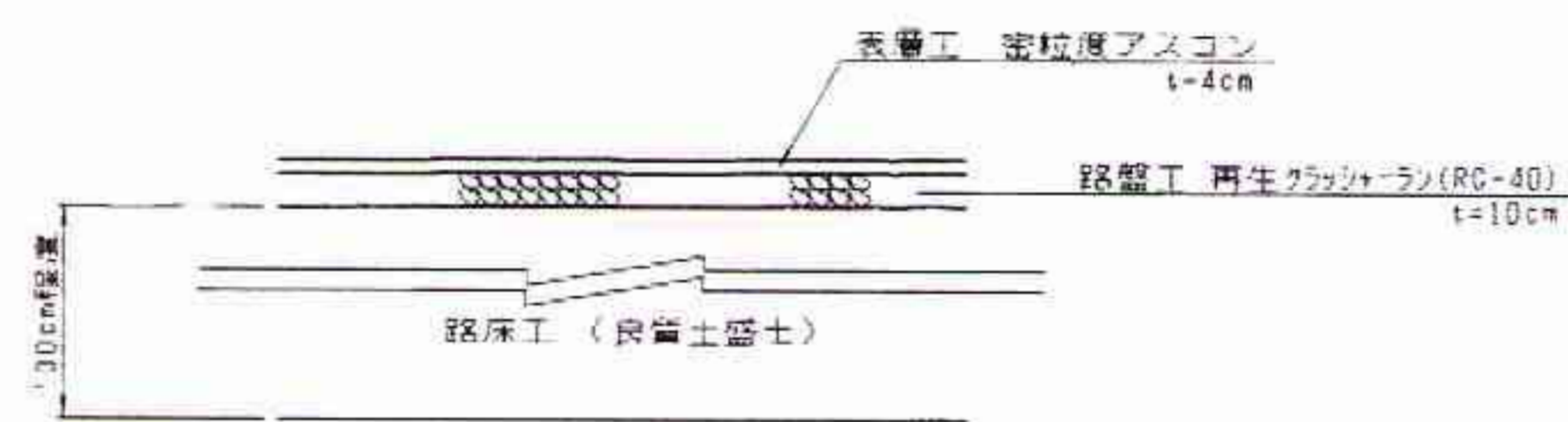
鋼管杭継手部詳細図 S=1:2



崩壊部法面標準断面図 (S=1/200)

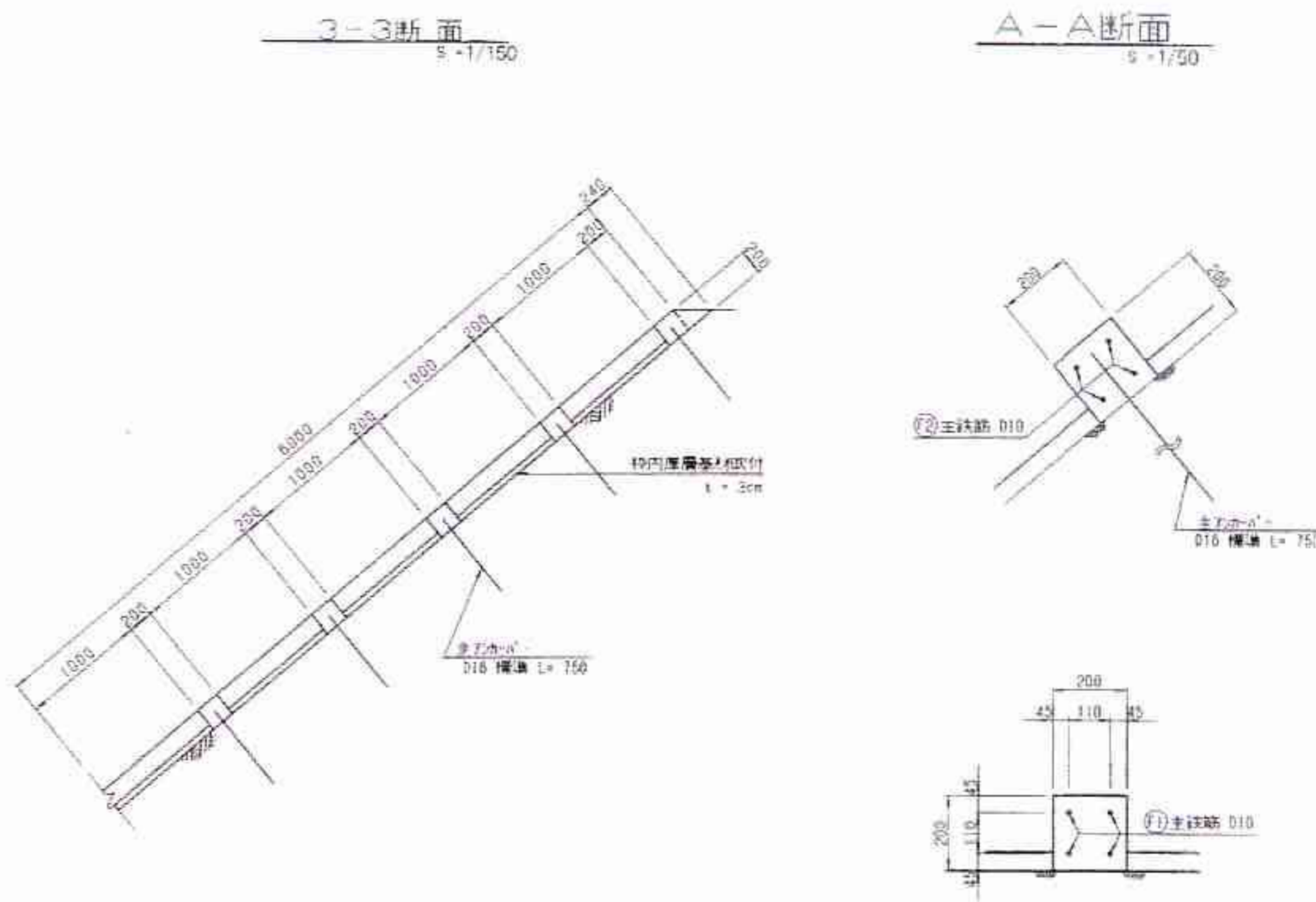
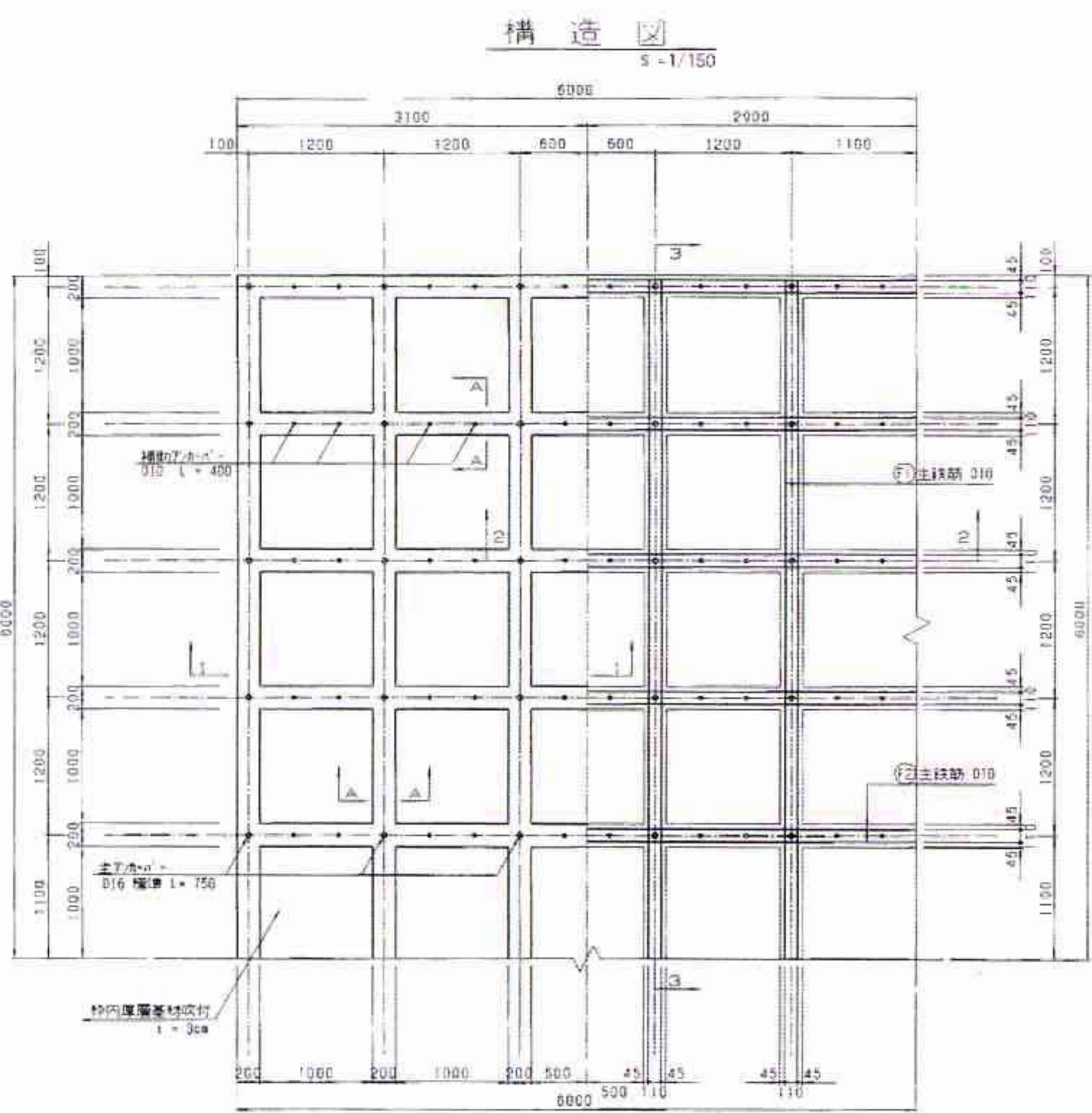


舗装構成図 S=1:20

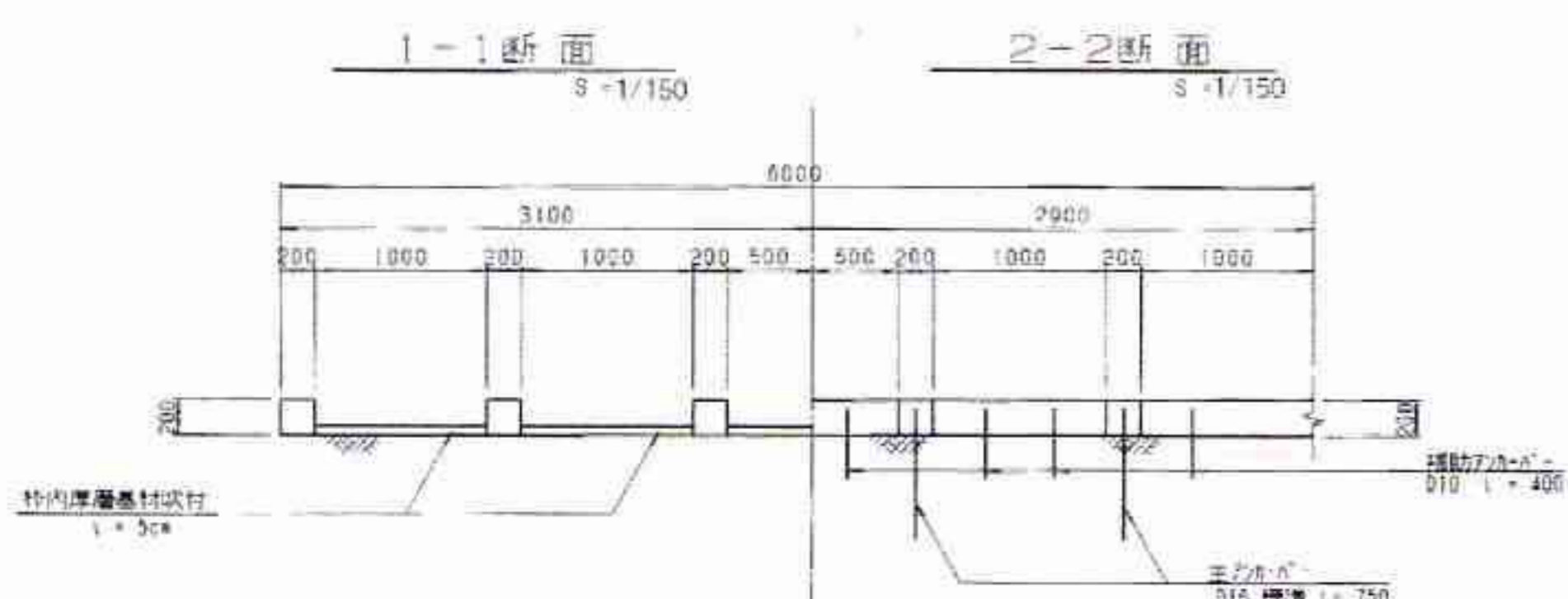


現場吹付法枠工構造図

現場吹付法枠工構造図 (h200×b200-1200×1200)



鉄筋単位寸法図 S=1/150



鉄筋表 1.0.0 * 0.0 m - 26.0 m 部

筋種	径	本数	単位重量	本数×単位重量	重量	備
F1	D13	20	0.582	3.33	57	縦筋
F2	D13	20	0.582	3.33	57	横筋
					134 kg	
合計					134 kg	